

位置図



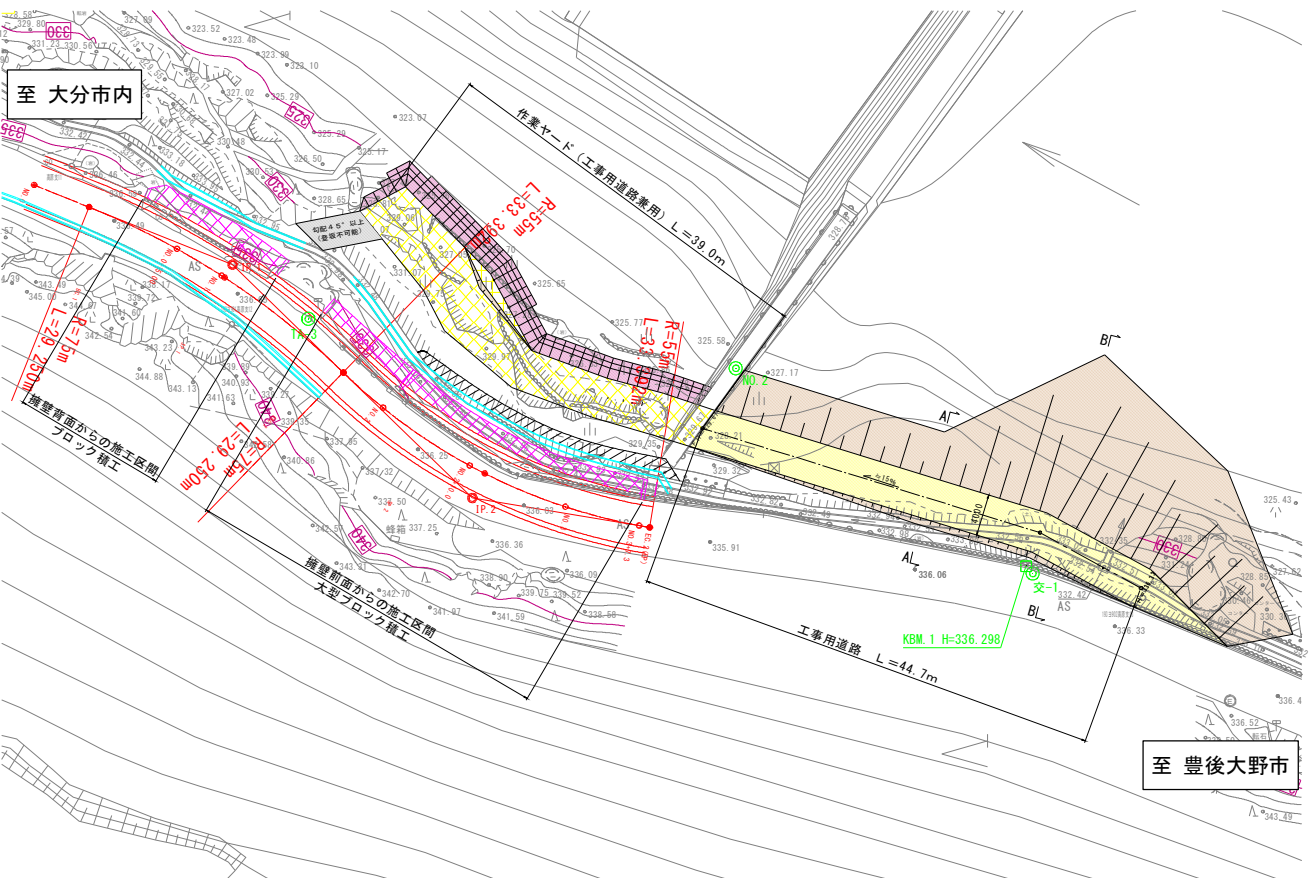
現地条件・課題(施工上の制約、設計のコントロールポイント等)

- 国道442号：現況交通量 627台/12h(内大型車 12台/12h)R5年度実測値
- 緊急輸送道路 1次ネットワーク指定道路
- 曲線半径が小さい等により通行車両の走行性、安全性が低い
- 現道幅員 4.0～5.0m □ 河川並行、近接 □ 山側急峻、巨石多数
- 支障物件：電柱、NTT埋設物 □ 施工時の通行止めは極力避ける

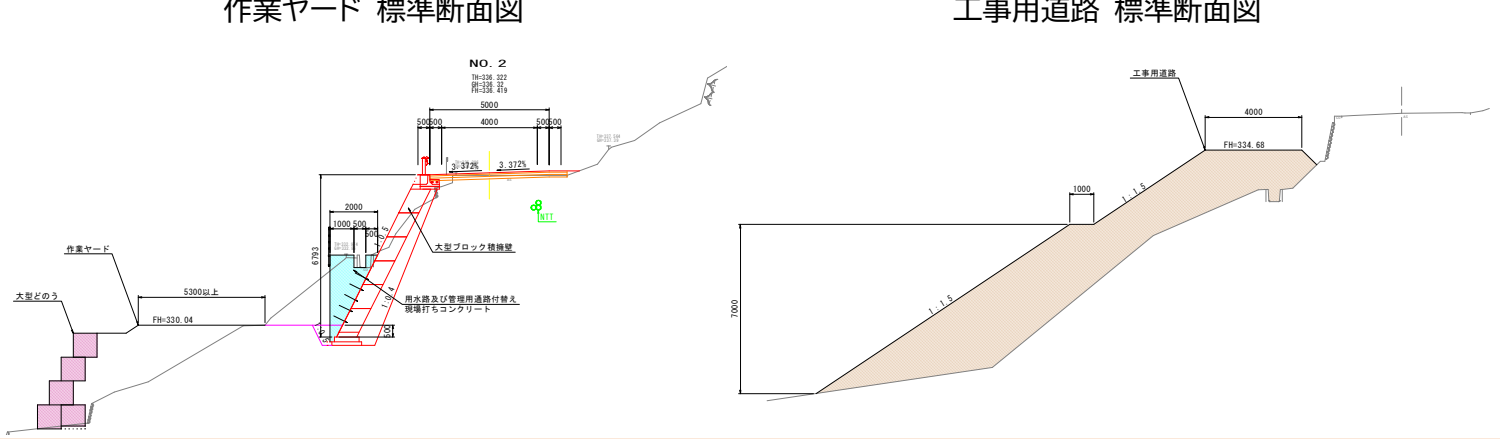
設計条件

- 当該箇所は、1.5車線の道路整備による線形改良等を目的としており、設計条件は以下のとおりである。
- 道路区分：第3種第5級 □ 設計速度：V=30km/h
  - 計画幅員：W=5.0m(車道 4.0m, 路肩 1.0m) 歩道なし

平面図(工事用道路) 工事用道路を土砂のみで構築



標準断面図



施工者からの意見および対応方針

○改善事項(施工者からの意見)

- 擁壁の床掘範囲が現道まで及ぶが、その際、車両が通行できる幅員を確保できるのか。  
→施工時に車両が通行する幅の確保が可能かを確認する。(設計者)
- 擁壁の床掘が現道に及ばないよう、可能な限り擁壁位置を前出しした方が通行止めを回避できるのではないか。  
→可能な限り擁壁位置を前出しする計画とする。(設計者)
- 計画の作業ヤードの高さを見ると、一部、低い箇所があるが、施工が困難ではないか。  
→作業ヤードの高さを上げることができないか検討する。(設計者)
- 山側を切土するルートではなく、川側に盛土するルートを選定した理由について  
→山側は急峻地形で、巨石が多数存在するため、工事費が高くなることや通行止めの影響範囲が大きくなってしまふこと等の理由から川側ルートを選定している。(設計者)

○確認事項(設計者からの確認事項)

- 川側の工事用道路設置について  
→施工可能であるが、土砂搬入時の一時的な通行止めについては対策を考える必要がある。(施工者)
- 起点側ブロック積擁壁施工時の通行止めについて  
→施工時に通行止めの必要がある。(施工者)

○その他

- 川側を通る用水路の施工時の取り扱いをどのようにするか。  
→耕作地への取水が必要な時期以外は止めてよいことは管理者に確認している。その詳細な時期については今後確認を行う。(発注者)
- 施工期間中の一部でも通行止めが生じるならば、安全性、施工性を考えると、施工の全期間を通行止めする方がよい。  
迂回路も存在するため、問題ないのではないか。  
→国道であり、通勤等で使用される利用者もいるため、通行止めは極力避ける必要がある。そのため、通行止めが最小となる施工を検討している。(発注者)